日替わり部分

八調経　巻1

3　調

常に変わらない枠組みとなる

の楽譜の

3調マークの箇所に挿入して組み立てる

スボタ晩 課

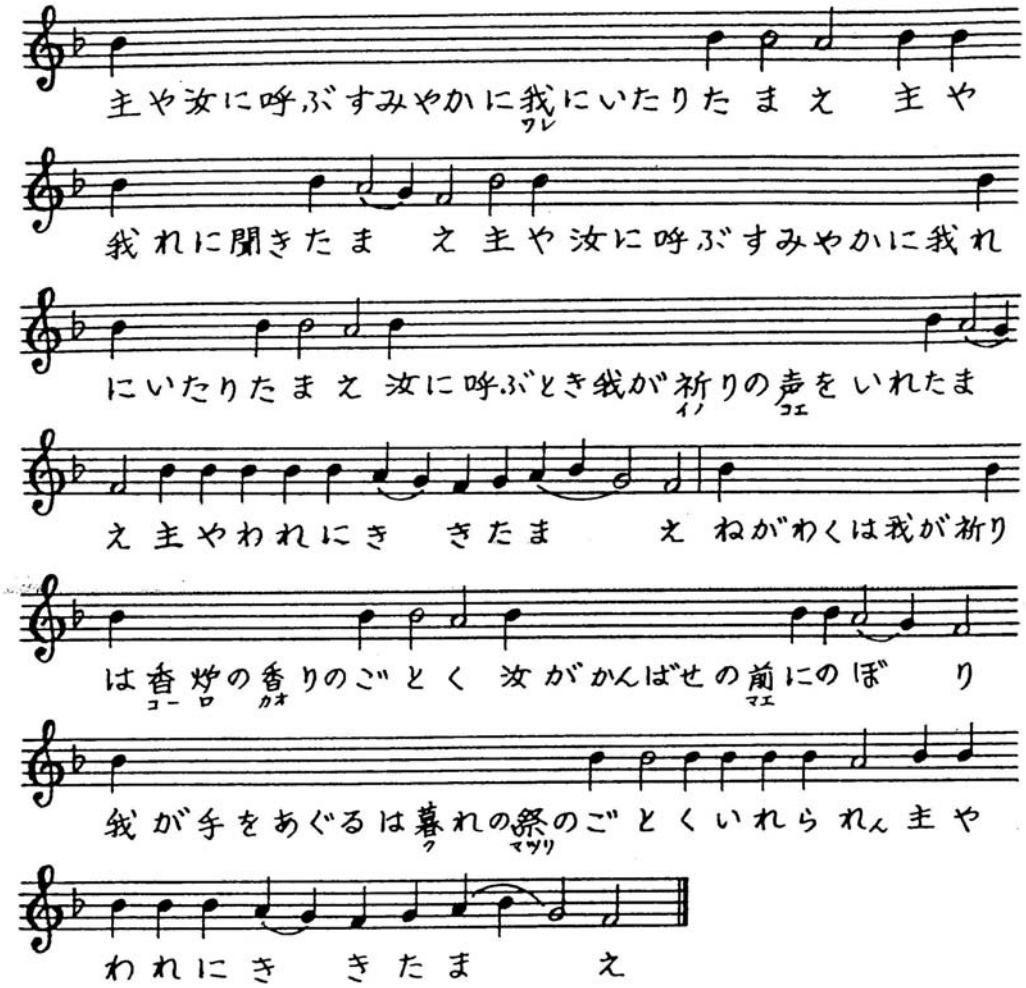
【首唱(103)聖詠】「我が霊や」、【大連祷】

【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、

【小連祷】

３調

「主や、爾によぶ」主日３調［時課経 P182］



◇時課経 P180「主や我が口に」～P183「･･･強ければなり」まで省略

句)、我が 靈 を獄 より引き出して、我に 爾 の名を讃榮せしめ給へ。

ハリストス救世主 よ、 爾 の十字架にて死の權は滅 され、悪魔の誘惑は空しくせられたり。信を以て救はるる人の 族 は恒に歌を 爾 に 奉 る。

句)、 爾 恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

主よ、 爾 の復活にて萬有は照され、樂園は 再 開かれたり。 悉 くの造物は 爾 を讃め揚げて、恒に歌

を爾に奉る。

句)、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給へ。

我は父及び子の能力を崇め。聖神の權を歌ひ、分れず造られざる神性、一體の三者、世世に王たる者を讃め揚ぐ。**◇以下適宜省略されることが多い**

又アナトリイの讃頌、同調。

句)、願はくは爾の耳は我が祷の聲を聽き納れん。

ハリストスよ、我等爾の尊き十字架に伏拜し、爾の復活を歌頌讃榮す、蓋爾の傷に因りて我等皆癒されたり。

句)、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

我等は童貞女より身を取りし救世主を歌ふ、蓋我等の爲に十字架に釘せられ、三日目に復活して、我等に大なる憐を賜へり。

句)、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

ハリストスは降りて、地獄に在る者に福音して曰へり、勇めよ、今勝てり、我は復活なり、我死の門を破りて、爾等を引き上げん。

句)、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

ハリストス神よ、我等爾の至淨なる家に立つに堪へざる者は晩の歌を奉りて、深き心より籲ぶ、爾の三日目の復活にて世界を照しし人を愛する主よ、爾の民を爾の諸敵の手より脱れしめ給へ。

句)、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。

童貞女よ、我何事に遇ひても爾の神聖なる恩寵を呼ぶ者に慈憐を垂れて、速に聽き給へ、蓋我が靈の望を一切爾に負はせたり。我萬事に於て爾の神聖なる慮を恃む、爾我に將來の光榮及び神聖なる生命をも獲しめ給へ。

句)、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

生神女よ、我が諸慾の炭は我の中に燃えたり。祈る、女宰よ、怒と憤、沉湎と邪淫、貪婪と頑固、怠惰と煩悶、驕慢と良心に戻ることより吾が靈を脱れしめて、我を救

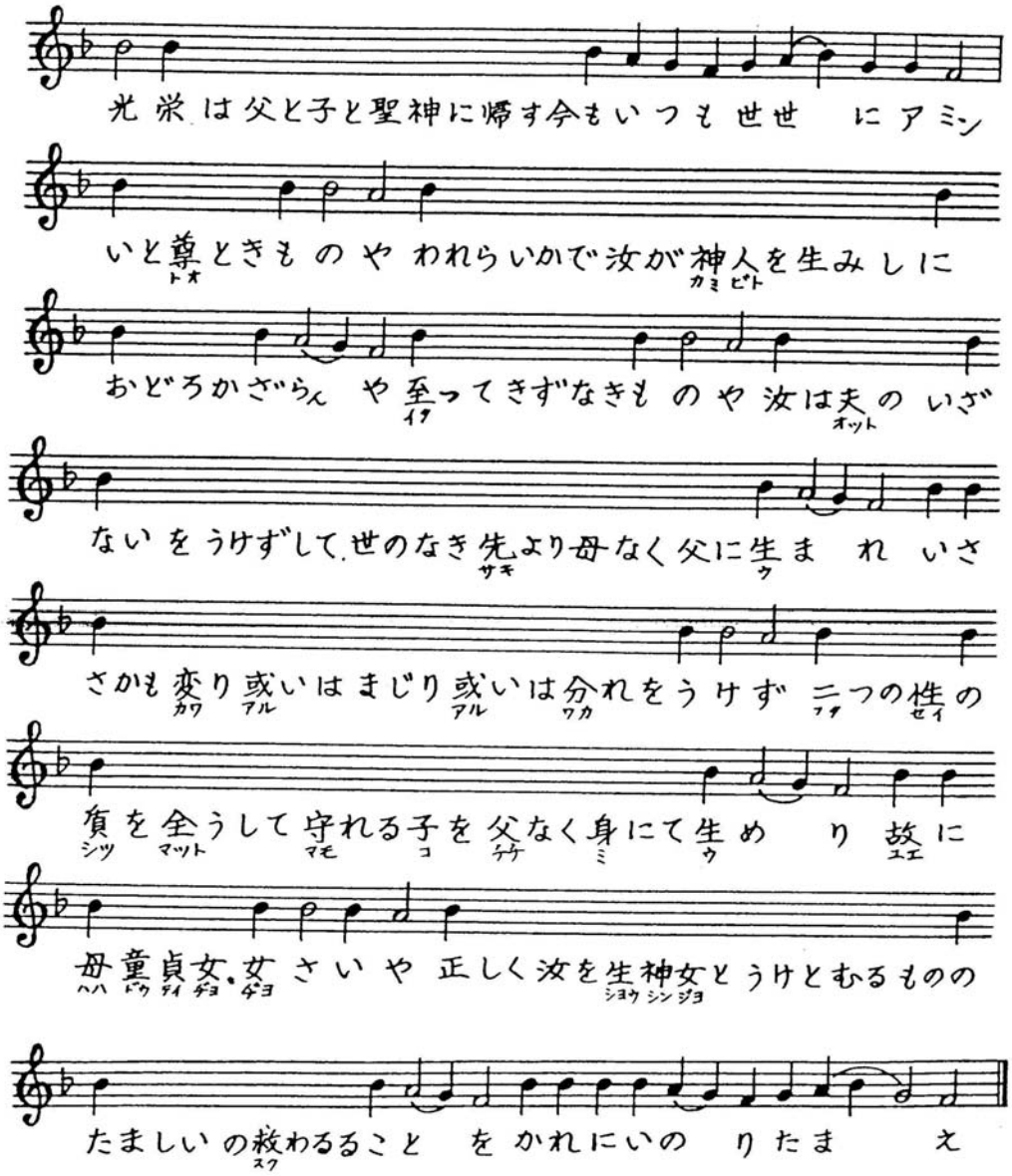
ひ給へ。

句)、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

我等皆潔き良心を以て生神女の前に俯伏して、心の内より絶えず呼ばん、聖なる女宰よ、我等衆を

慍怒と忿恨、災禍と誘惑より救ひ給へ。蓋我等は爾を垣墻及び保固として獲て、爾の屏幪の下に趨り附きて、爾に依りて救はる。

◇生神女ドグマティク



◇【聖にして福たる】　→通常部分（P7/8「聖にして福たる」へ戻る

【スボタのポロキメン】（６調）第９２聖詠１―５

重連祷

誦経「主や我等を守り」

増連祷

（増連祷が終わったら）

3調　挿句）のスティヒラ

○挿句）に主日の讃頌、第三調。

己の苦にて日を晦くし、己の復活の光にて萬物を照ししハリストス、人を慈む主よ、我等の晩の歌を納れ給へ。

　　他の讃頌

句)、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

主よ、爾が生命を施す復活は全世界を照して、爾の朽ちたる造物を興せり。故に我等アダムの詛を脱して呼ぶ、全能の主よ、光榮は爾に歸す。

句)、故に世界は堅固にして動かざらん。

爾は變易せざる神にして、身にて苦を受けて變易せり。造物は爾が十字架に懸れるを見るに堪へずして、恐懼に由りて變じ、欺息して爾の恒忍を讃め揚げたり。爾は地獄に降り、三日目に復活して、世界に生命と大なる憐とを賜へり。

句)、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

ハリストスよ、爾は我が族を死より救はん爲に死を忍び、三日目に死より復活して、爾を神と識認せし者を己と偕に復活せしめて、世界を照し給へり。主よ、光榮は爾に歸す。

　　光榮、今も、生神女讃詞。

爾は種なく聖神に由りて、父の旨を以て、神の子、世の無き先に母なく父より生れし者を妊み、我等の爲に父なく爾より在りし者を身にて生み、嬰たる者を乳にて養へり。彼に我等の靈を諸難より脱れしめんことを息めずして祷り給へ。

→通常部分 P10「シメオンの祝文」へ戻る

【シメオンの祝文】「主宰や今爾の言に従いて」

「聖三祝文」「至聖三者」「天主経」

司祭　　蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神°に帰す、今も何時も世世に、

（詠）　「アミン」

「生神童貞女や、慶べよ」

「願わくは主の名は崇めほめられ･･･・」

司祭　発放詞

早 課

P12【六段の聖詠】【大連祷】に続いて

＜カフィズマ、セダレンは省略＞

3調　主は神なり、主日トロパリ

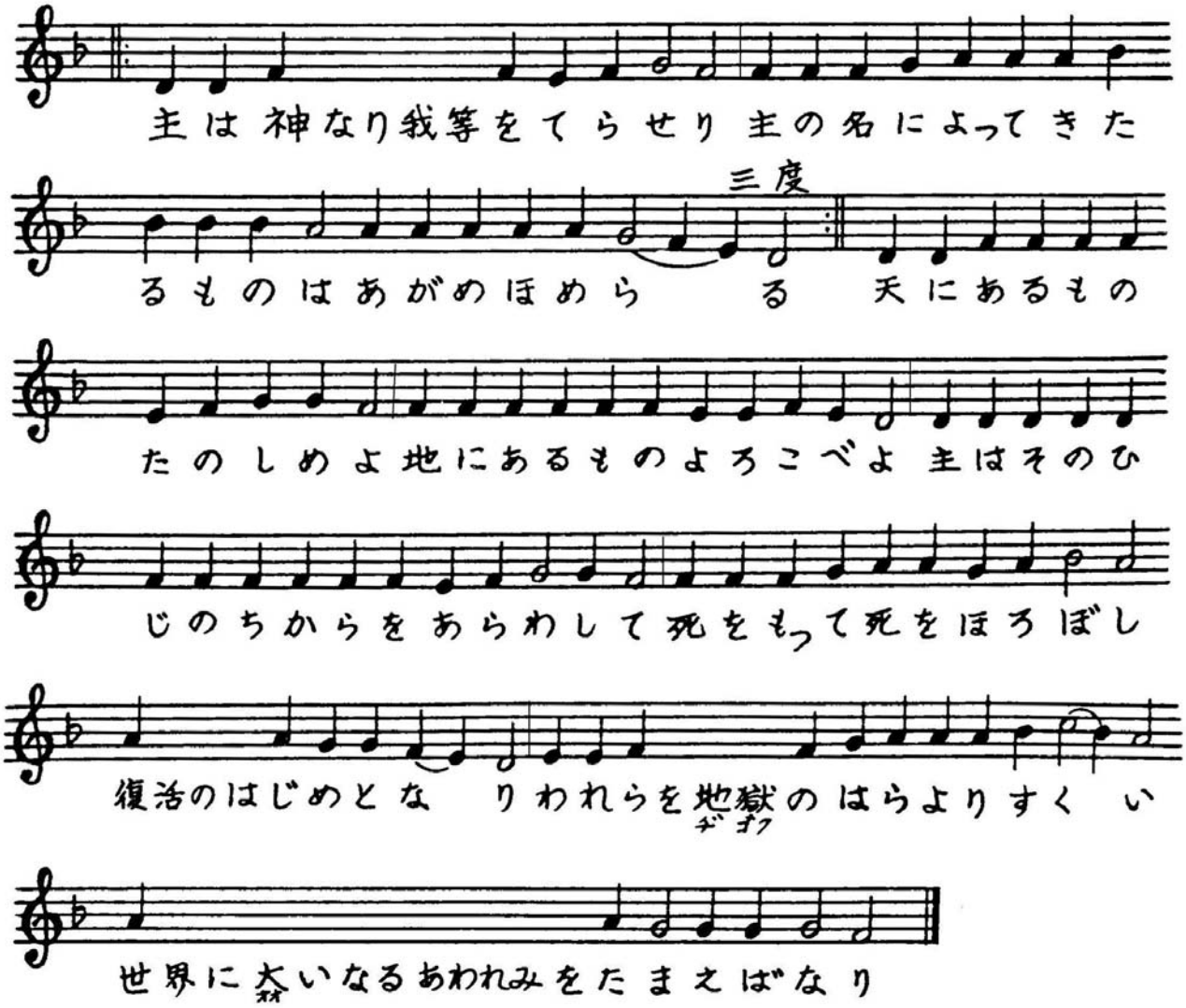
主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句))　主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句))　彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句))　我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句))　工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



→通常部分　P14　【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

＜ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略＞

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連祷】【アンティフォン】４調

３調【アンティフォン】

品第詞、第三調。第一倡和詞、毎句）復唱す。

言よ．爾はシオンの虜をワワィロンより引き出せり、我をも諸慾より生命に引き寄せ給へ。
南風の時に神聖なる涙を以て播く者は、喜を以て永生の穂を刈る。

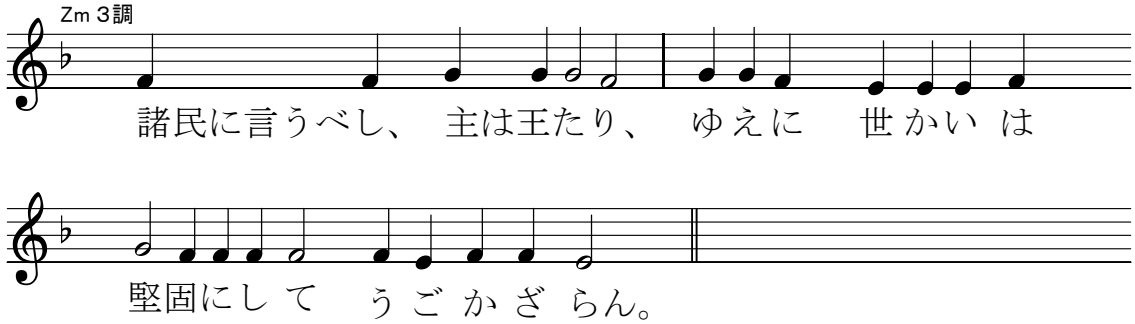
光榮　（今も）

聖神には凡の善き賜は屬す、蓋彼は父及び子と偕に輝き、萬物は彼に頼りて生き且動く。

◇以下　省略　今も、同上。

提綱、第三調

諸民に言ふべし、主は王たり、故に世界は堅固にして搖かざらん。
句)、新なる歌を主に歌へ、全地よ、主に歌へ。



→通常部分　P17

【福音の読み】

【福音後のスティヒラ】「ハリストスの復活を見て」

輔祭　「神よ爾の大いなる憐れみによって」「主憐れめよ」12 回

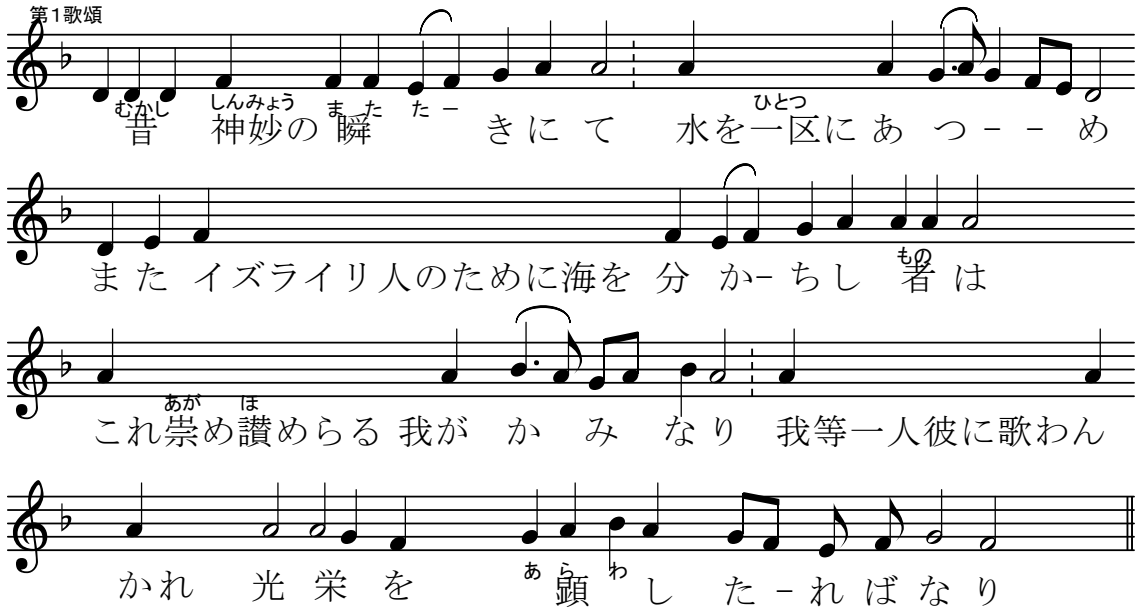
3調　カノン　イルモス簡単バージョン

主日のカノン、第３調

〇主日の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一區に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。



附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

土を擬定して、罪を犯しし者の爲に汗の果として荊棘を出すことを命ぜし主、法に戻る手より身にて荊棘の 冠 を受けし者は、是れ吾が神なり。彼は 詛 を 滅 し給へり、光榮を 顯 したればなり。

附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

苦 に 與 る生ける身を受けしに因りて死を懼れし者は、死に勝ちて之を破る者と 顯 れたり、是れ吾が神なり。彼は 殘虐者 と 戰 ひて、 衆人 を 己 と偕に復活せしめ給へり、光榮を 顯 したればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

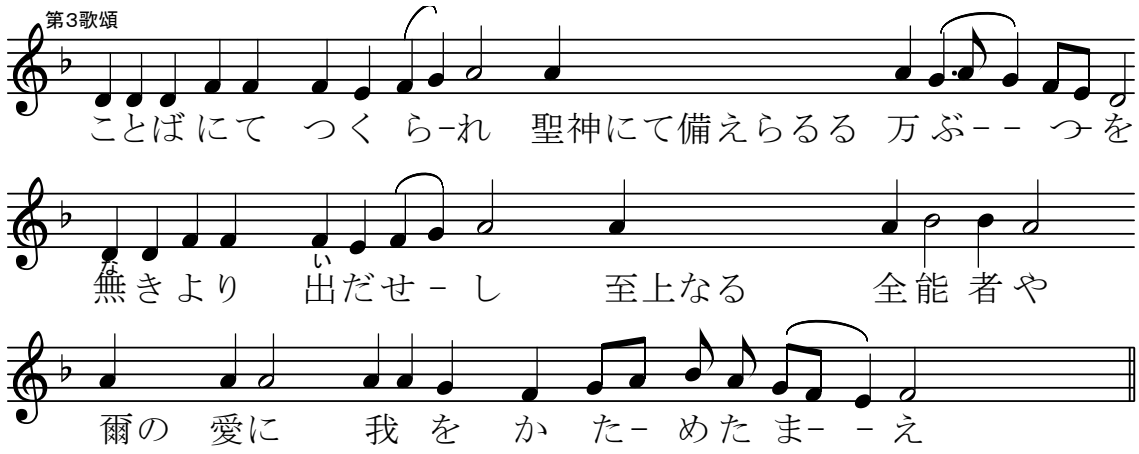
生神女讃詞

萬族は 爾 種なく生みし者を 眞 の生神女 と讃榮す、蓋 爾 の聖にせられし腹に降りし者は是れ吾が神なり。彼は我等の爲に我等に肖たる者と爲りて、 爾 より神及び人として生れ給へり。

<●十字架のカノン、生神女のカノンは省略＞

第三歌頌

イルモス、**言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。**



附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾 の十字架を以て不虔者は辱 しめられたり、蓋 阱 を掘り、之を竣へて、自 ら其中に陥 り、謙卑の者の角は 爾 の復活に藉りて擧げられたり。

附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

人を愛する主よ、聖教の傳道が諸民に廣布するは水の海に溢るるが如し、蓋 爾 は墓より復活して、聖三者の 光 を 顯 し給へり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

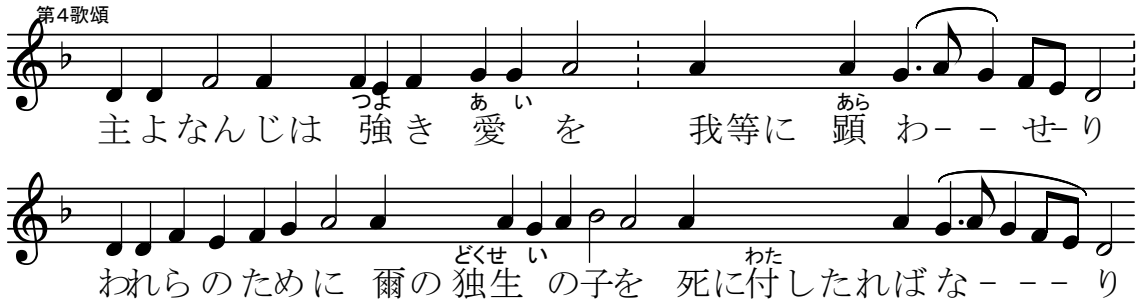
生神女讃詞

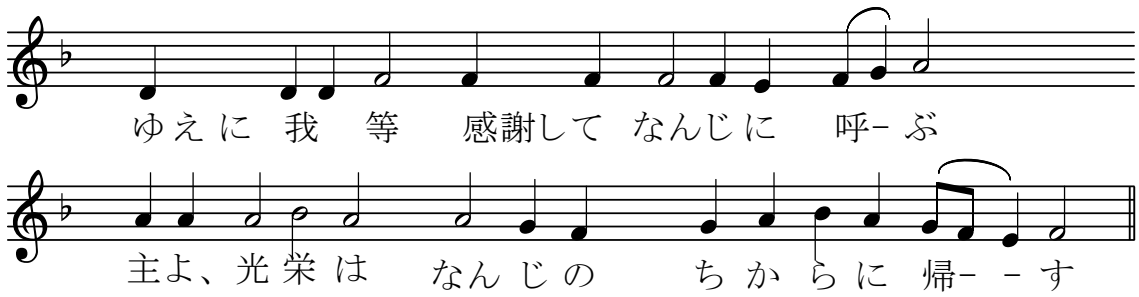
永遠に王たる主の活ける城邑よ、光榮の事は 爾 に於て傳へられたり、女宰よ、 爾 に藉りて神が地上の者と偕に居りたればなり。

◇小連祷

第四歌頌

イルモス、**主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。（楽譜は次ページ）**





附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は慈憐に因りて瘡痍と毀傷とを受け、頬を批つ陵辱を忍び、恒忍にして唾せらるるを堪へ、此等を以て我が爲に救を成し給へり。主よ、光榮は爾の力に歸す。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

至榮なる生命よ、爾は貧しき者を苦より、乏しき者を嘆より救はん爲に、死に屬する身にて死を受け、壞りし者を壞り、衆人を己と偕に復活せしめ給へり、光榮を顯したればなり。

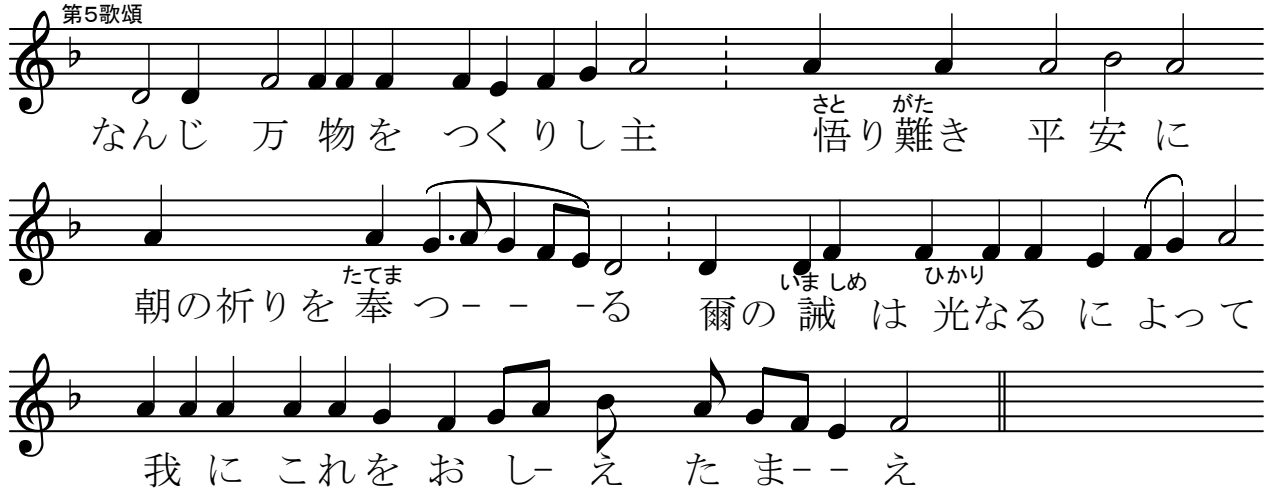
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

主ハリストスよ、爾の苦にて獲たる牧群を記念し、爾の至榮なる母の慈憐なる祷を受けて、迫害せらるる者を顧みて、爾の力を以て之を救ひ給へ。

第五歌頌

イルモス、**爾萬物を造りし主、悟り難き平安に、朝の祷を奉る、爾の誡は光なるに因りて、我に之を教へ給へ。**



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

義を以て全地を審判する見ざる所なき主よ、爾はエウレイ人の娼嫉に因りて不義なる審判者に付されて、古のアダムを定罪より脱れしめ給へり。

附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

死より復活せしハリストスよ、 爾 の十字架の勝たれぬ 力 を以て 爾 の平安を 爾 の諸 教會 に與へて、我が 靈 を救ひ給へ。

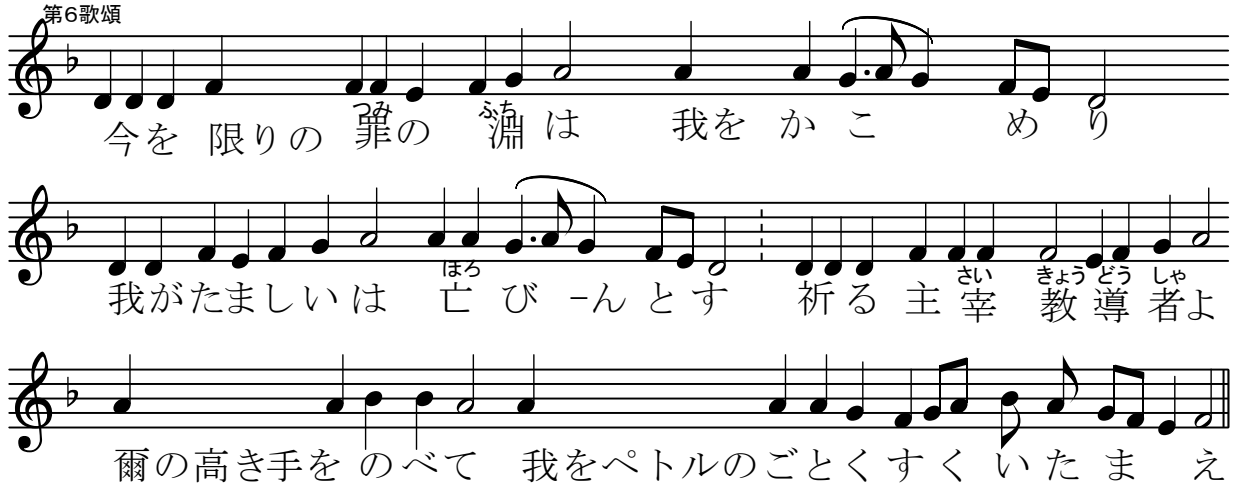
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

永貞童女よ、爾 は 獨 萬物の中に容れられざる神の 言 を容れて、天より至りて宏き聖なる幕と 顯 れたり。

第六歌頌

イルモス、**今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は亾びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。**



附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

主宰よ、 爾 の仁慈なる降臨に因りて、慈憐と洪恩との淵は我を圍めり。 蓋 爾 は身を取り、僕の 形 を受けて、我を神成して、 己 と偕に光榮を獲しめ給へり。

附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

殺す者は殺されし主の生かされたるを見て、死に服せり。ハリストスよ、是れ 爾 の復活の表式、 爾 の至淨なる 苦 の勝利の記號なり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

智慧に超えて 獨 造成主及び人人の轉達者と爲りし至淨なる者よ、 爾 の子が罪を犯しし 爾 の諸僕に慈憐を垂れて、援助を 施 さんことを祈り給へ。

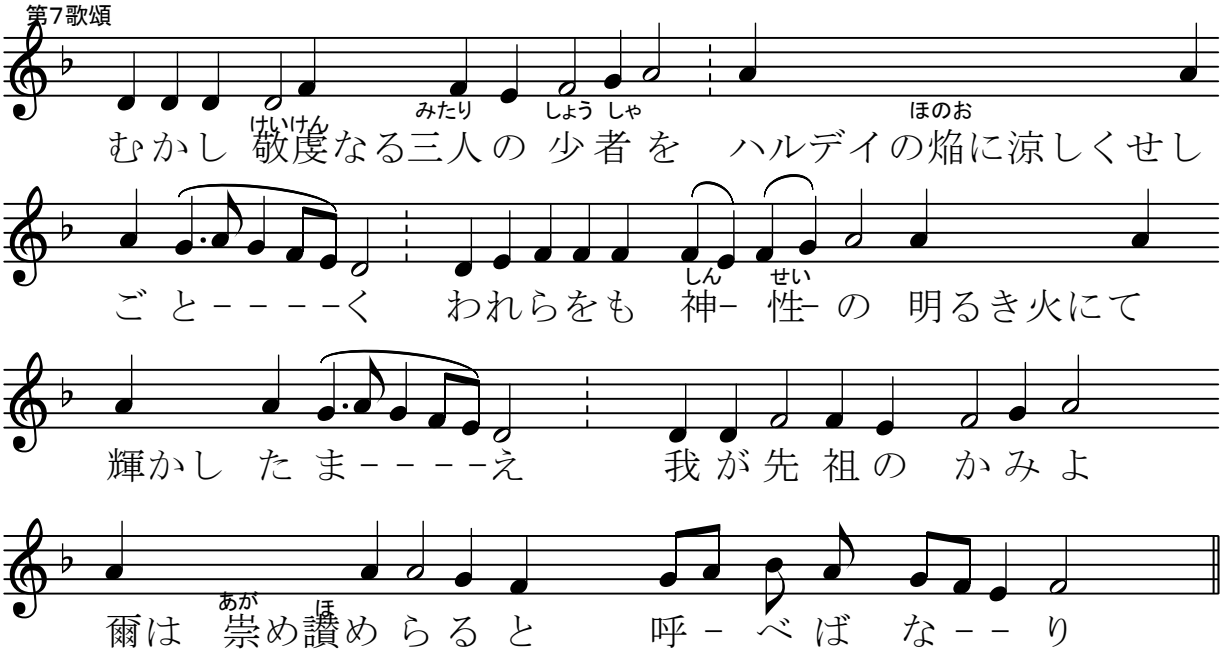
◇小連祷

○小讃詞、第三調。

慈憐なる主よ、爾は今墓より復活して、我等を死の門より升せ給へり。今アダムは樂しみ、エワは歡び、諸預言者は列祖と偕に絶えず爾の權柄の神聖なる能力を讃め歌ふ。

第七歌頌

イルモス、**昔敬虔なる三人の少者をハルデイの焔に涼しくせし如く、我等をも神性の明るき火にて輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼べばなり。**



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

造物主の十字架に釘せらるる時、殿の美しき幔は裂けて、聖書に隠れたる眞理を信者に顯せり。故に彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾の脅の刺されしに、爾は、定制に由りて、地に滴る生命を施す神聖なる血の點滴を以て、地より造られし者を改め造り給へり。故に彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

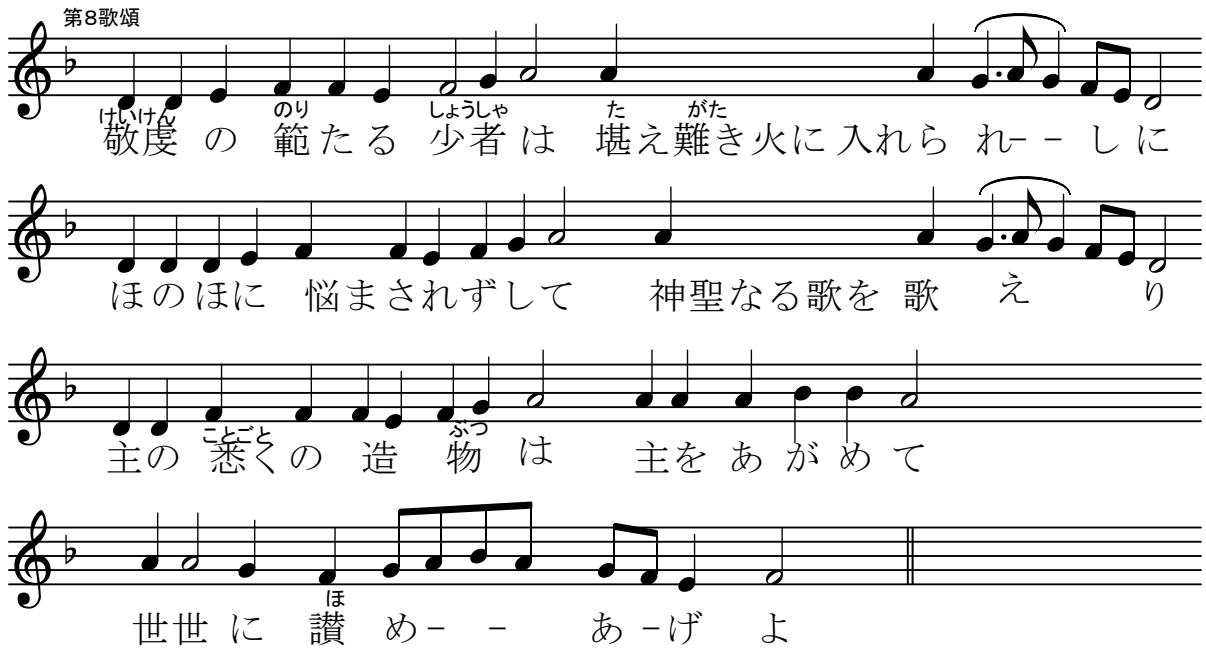
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

聖三者讃詞

我等信者は善なる神を父及び獨生の子と偕に讃榮し、三位の中に惟一の元、惟一の神性を尊みて呼ばん、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焔に悩まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

爾の十字架の髑髏の處に樹てられしに、殿の装飾は裂かれ、造物は恐懼に由りて傾きて歌へり、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は墓より復活して、木に縁りて誘はれて陥りし者を神聖なる力を以て改め給へり。故に彼呼びて云ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

父と子の聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

至淨なる神の母よ、爾は神の殿、活ける居處、及び約匱と顯れたり、爾は造物主を人人と和げ給へり。我等悉くの造物は宜しきに合ひて爾を歌ひて、萬世に崇め讃む。

◇生神女の歌、「我が靈は主を崇め」、附唱「ヘルワィムより尊く」歌う。

我が心は主を崇め、我が霊は神我が救主を悦ぶ。

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女たる爾を崇め讃む。

第２句）　その婢の卑しきを顧み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え‥‥

第３句）　権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世　彼を畏るる者に臨まん

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え‥‥

第４句）　其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え‥‥

第５句）　権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え‥‥

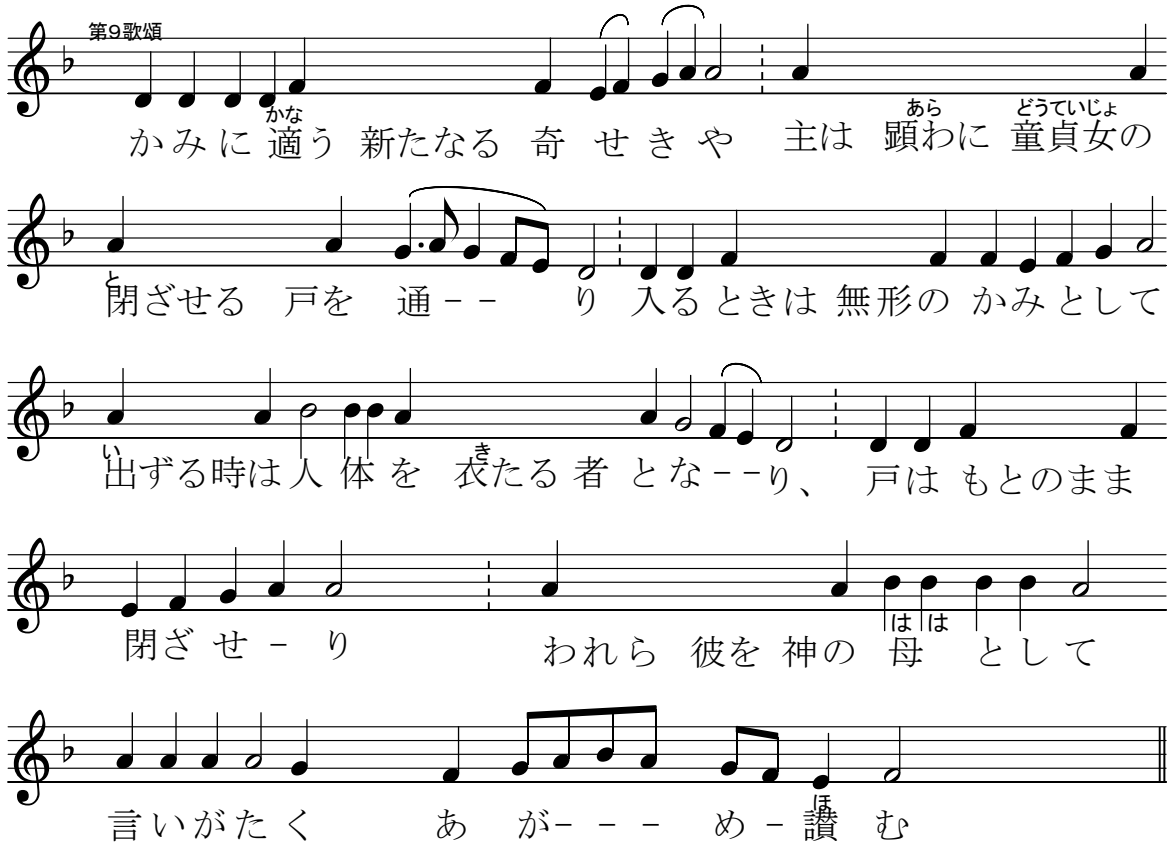
第６句）　其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

（附唱）　ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え‥‥

第九歌頌

イルモス、神に適ふ新なる奇蹟や、主は顯に童貞女の閉せる戸を通り、入るときは無形の神にして、出づるときは人體を衣たる者となり、戸は元の儘閉せり。我等彼を神の母として、言ひ難く崇め讃む。(楽譜次ページ)



附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

神の 言 よ、爾 造物主が木に擧げられ、神が諸僕の爲に身にて 苦 を受け、氣息なくして墓に臥し、死者を地獄より解き給ひしを見るは畏るべき哉。故にハリストスよ、我等 爾 を全能者として崇め讃む。

附唱、主よ、光榮は 爾 の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、 爾 は死者として墓に置かれて、列祖を死の 朽壞 より救ひ、生命の花を發きて、死者を復活せしめ、人の性を 光 に 導 き、神聖なる不朽を之に衣せ給へり。故に我等 爾 を永在の 光 の 泉 として崇め讃む。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

純潔 なる者よ、 爾 は神の殿及び寶座と 現 れたり、至上者は之に入り、夫 なく 爾 より生れて、 爾 の體の門を啓かざりき。故に 潔 き者よ、 爾 の息めざる祈祷を以て諸敵を 速 に我が皇帝に服せしめ給へ。

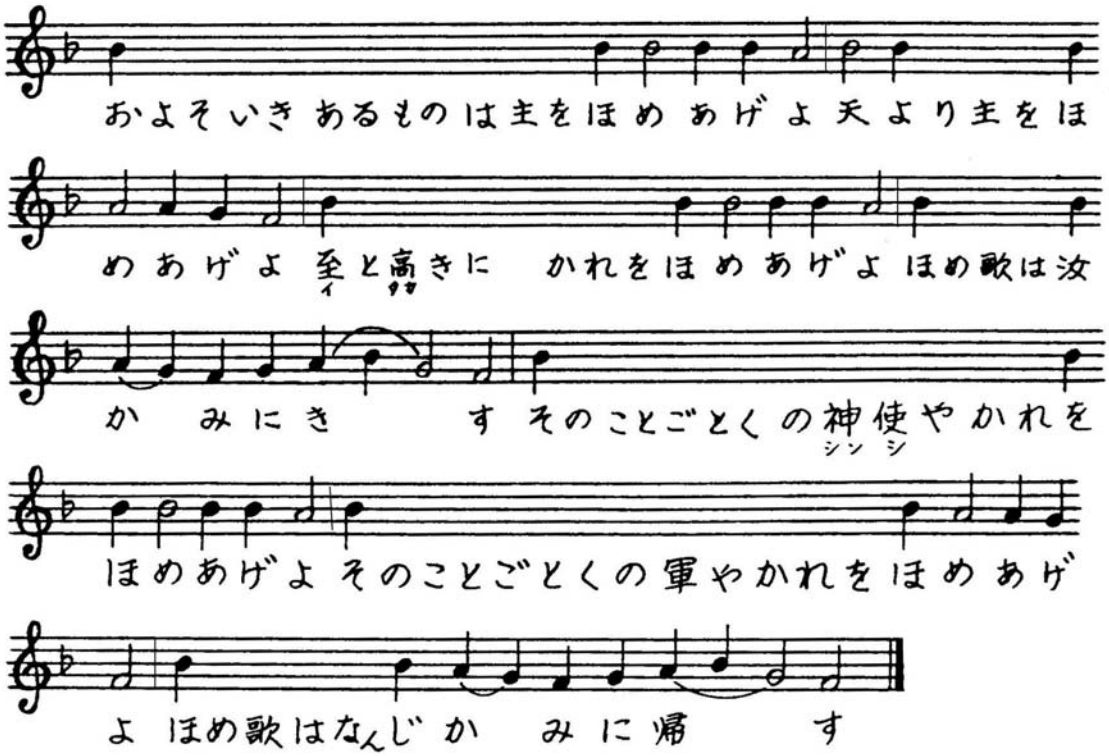
→通常部分へ戻る　P29

◇　小聯祷

「主我等の神は聖なり」

【差遣詞】

3 調【讃揚歌とスティヒラ】



→通常部分 P30 に戻る　【大詠頌】を歌う